Academy's six

刹那＆僚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Ａｃａｄｅｍｙ'ｓ ｓｉｘ

【Ｎコード】

Ｎ５５９６Ａ

【作者名】

刹那＆僚

【あらすじ】

特別な人間だけに与えられる“能力”。香坂依緒梨もその“能力”を持つ者の中の一人だった――……

第1話　出会い

「え〜と…４組の教室ってどこだろう…」
初めましてこんにちは。今日から、３学年になる香坂（コウサカ）依緒梨（イオリ）と申します。さっきまで別の会館で、学園長から全体のお話があり、クラス発表があり――…。普通の学校と同じような新学期を迎えていました。
え？何が違うのかというと、わたし達の学校は、小さな頃から特殊な力が使える者同士が集まる、能力養成学校なんです。わたしもその中の一人です。詳しいことは、また後で。とりあえず、教室探さないと…。

「あれあれ？もしかして迷ったかな？」
何処から現れたんだろう――もしかして、わたしがボーっとしていて気がつかなかっただけかもしれないけど――窓の縁に座って、外を向いている女の子が話しかけて…って！！
「ああああ危ないですよ！！？ここ４階…！！」
「あ、びっくりした？へへ、ゴメンね」
女の子――茶髪で、髪を少しだけおだんご状に結んでいて、肩に掛かるかかからないかぐらいの残りの髪を残し、髪と同じ色の目の人――がそういうと、くるっと体を回転させて、廊下に出た。
「んで、迷子なの？」
なんて単刀直入な人なんだろう。でも、事実なのだから仕方ない――…
「あ、はい…。３年４組の教室が何処か分からなくて…」
恥ずかしい〜〜！！！穴が合ったら入りたいぐらいだ。
「うっそ！！？クラスメイト発見ってやつ？じゃあ一緒に行こうよ

♪あ、貴女の名前は？あたしは、伊豆川那浬（イズカワナリ）。よろしく♪」
「あ、わたしは香坂　依緒梨。よろしくね」２人で挨拶を交わしながら廊下を歩く。
クラスが５組あり、友達皆と別れてしまったので、わたしは安心した。
伊豆川さんと喋っている間に、いつの間にか教室に着いていた。
知ってる人はあんまり居ないから、それがなんとも新鮮だ。
―――さぁ！！もう３年なんだから、しっかりしなきゃ！！
ｗｒｉｔｅｒ．ｓｅｔｕｎａ

第2話　Ｒｅｄ'ｓ　ｍｅｌｏｄｙ

第2話　Ｒｅｄ'ｓ　ｍｅｌｏｄｙ

3学年の教室前廊下はクラス変え後特有の賑やかさに溢れていた。
「離れちゃったね～……。」
「きゃー、一緒だったのー！！？よかったね！」
こんな感じに（笑）
さっきも言ったけど、わたしは友達とは離れちゃったんだ。コレから新しい友達を作るんだぁー頑張る！
というかね、早速友達が出来たの！
伊豆川さんって言うんだけど、彼女の案内のおかげで無事に教室に辿り着くことができたんだぁ。
彼女についてまだよくは知らないけど、これから仲良くなりたい。
「誕生日聞いちゃおっかなぁ～」
伊豆川さんの可愛い顔が視界一杯になって、わたしは少し驚いた。
改めてみると本当に可愛い人だなぁ～って思う。
「ぁ、誕生日？えっとねー……」
ドン！！
「ふぁ！！？」　「はゎっ！？」
不意に後ろから人がぶつかってきて、わたしがよろけると手を取って支えてくれた。
「あ……ごめんなさい。」
「いや～、こっちこそごめんな！後ろ向きにあるいてたゎーマジごめん！」
その人の顔が間近にあった。
大きいナァと思ったらやっぱり男の子で、決して細身とは言えないけれども筋肉質とも言えないような。
身長が高く、赤色の髪とは対象的な深い蒼色の瞳は意志の強さを表

しているような。
そんな人だった。
「俺は東莉（トウリ）　新（アラタ）！！一緒のクラスだろ～？是非よろしく！」
そう言って伊豆川さんとわたしの手を握る東莉君。
握ったままブンブン手を振り、わたし達の前を過ぎようと一歩踏み出した所で振り返る。
二カッと笑う赤色の好青年ってのが第一印象で、とてもしゃべりやすそうだなぁと思った。
「んじゃ！」
そう言って去って行った彼の余りの勢いに呆気にとられていたわたしたちは目を見合わせて笑う。
「面白い人だね♪♪」
「うんうん、仲良くなれそう！！」
さっきまでこっちにいた東莉君は、今度は向こうの男子の中でぎゃはぎゃはと笑っていた。
窓から見える空は青く澄んでいる。

Ｗｒｉｔｅｒ：Ｒｙｏ

第2話　Red's melody（後書き）

突然の出会い、
縮まる距離。

視界に飛び込む青の空と、
不安を和らげる赤の旋律。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5596a/

Academy's six

2011年1月26日03時42分発行